

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 大牟田市立白光中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒836-0005

福岡県大牟田市椿黒町32

E-mail : hakkou-js@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website : http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/hakko-jh/

児童生徒数：男子 138名 女子 143名 合計 282名

児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( 福祉 )

## 4. 活動内容

### (1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

持続可能な将来と社会のために求められる価値観、行動、及びライフスタイルを学び、各主体が持続可能な社会づくりに参加する生徒を育成することを目標として取り組んでいる。

また、本校におけるESDを通じてはぐくみたい能力・態度を以下のとおりでる。

- i 批判的に考える力
  - ・他者の意見や情報を、よく検討しとり入れる。
  - ・積極的・発展的に、よりよい解決策を考える。
- ii 未来像を予想して計画を立てる力
  - ・見通しや目的意識をもって計画を立てる。
  - ・他者がどのように受け取るかを想像しながら計画を立てる。
- iii 多面的、総合的に考える力
  - ・様々なものごとを関連づけて考える。
- iv コミュニケーションを行う力
  - ・自分の考えをまとめて簡潔に伝えることができる。
- v 他者と協力する態度
  - ・相手の立場を考えて行動する。

### 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

領域	人権・福祉	キャリア
1年	・認知症絵本教室（多） ・認知症啓発の寸劇づくり（連） ・福祉体験（連）	
2年	・ペア・ショッピング（連）	・職場体験学習（責）
3年	・保育体験学習（公） ・福祉と環境を守る政府（相）	・上級学校訪問（多）

#### 【1年生の取り組み】

##### ①認知症絵本教室。

『いつだって、ここらはいきている』（認知症をテーマにした絵本）やケア研究会の人たちとのグループ討議等を通して、認知症についての知識や自分自身の認識の現状を知る。

福祉体験学習Ⅰ（認知症啓発の寸劇づくり）。認知症絵本教室で学んだことをふまえ、自分たちからできることを考えるために、認知症の方の行動等にかかわる具体的な場面を組み込んだ寸劇をグループで作る。その劇を地域の民生・児童委員の方等を招いて発表する。

## ②福祉支援施設での体験活動

1学期の福祉学習をふまえ、これまでの学習の成果、スキルや共感的理解を生かし、実際に、福祉施設での体験学習を行いました。

介護支援施設で働かれている方から高齢者との関わりや「福祉のこころ」について学び、学習を深めました。最初は、様々な高齢者の方の発言や行動に対して生徒は戸惑いの表情を見せていた。しかし、事前に学習した高齢者の方との対応の仕方や声かけのしかたなどのスキルを活用して高齢者の方と接することができた。

### 【2年生の取り組み】

第1学年の時、生徒は、自分たちの地域に目を向けたとき、高齢者だけではなく、だれにとっても暮らしやすいまちについて学習した。その時、バリアフリー化が進んでいないところで、「障壁（バリア）」のないまちづくりのため地域住民の一人として、中学生として何ができるのかという課題が生徒にうまれた。

その課題を解決するために、高齢者の方と一緒に歩き、商業施設で買い物をする中で、様々な解決すべき点が見えてくるのではないかと考えて、実際に行動を起こすこととした。

具体的には、高齢者施設を起点にして、1グループに1～2人の高齢者の方と一緒に商業施設や公共施設などを訪れ、その場所について、高齢者の視点から見て工夫された点や改善すべき点をまとめました。その時、生徒は、ただ歩くだけではなく、高齢者の方がもっと買い物しやすいように、もっと歩きやすいようにするにはどうしたらよいか、トイレなどの表示はわかりやすいかなどを調査しながら、近くの商業施設に行き、高齢者の方とともに買い物をを行った。

写真1は、道路に危険箇所がないかどうか調べているところである。

生徒は、「普段歩いている道路について、高齢者の方と一緒に歩くことで、気づいたことがたくさんあった」や「早く提言書にまとめたい」と感想に書いていた。

これらの調査結果をまとめるとともに、そのまとめた内容から、市や商業施設に改善してほしい内容等を提言書にまとめた。以下がその内容の一部である。

- ・商業施設に対して、車いすが通れるようにワゴンがあっても通路は120cmにしてほしい。
- ・AEDの場所がわかりにくいので、AEDの場所を地図に表示してほしい。
- ・郵便局の前の段差があり、危険であった。

さらに、再度大牟田市都市整備部建築住宅課の方に来てもらい提言書の内容を発表した。写真2は、その時の発表の様子である。

これらの提言書は、大牟田市都市整備部建築住宅課と大牟田市中心地区商店街連各協議会に提出した。

また、本市では、生徒が提言した、「信号機の信号の変わる時間がはやいところがあり、高齢者の方にとってとても危険だったので、長くしてほしい。」という提案を受け入れていただき、改善された。



写真1 危険箇所がないか調べている様子



写真2 提言を発表している様子

【3年生の取り組み】

3年生は、大牟田市内の6つの幼稚園・保育園の協力を得て、保育体験を行いました。

1・2年生の時に高齢者の方との接し方について学んできました。今回はその学びを生かし、自分よりも幼い子どもたちにどう声掛けをし、どう接すればいいのか工夫していました。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（）